

沼高図書だより

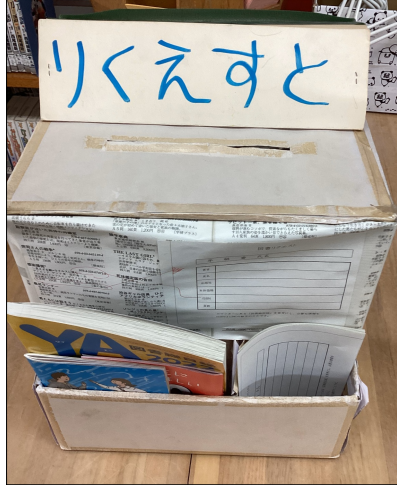
令和4年9月12日
広島市立沼田高等学校
図書委員会

ほしい本図書室で

約1か月で新着図書に

沼田高校の図書室には「図書室にはないけれど、この本が読みたい」という皆さんの希望に応える、リクエストボックスがある。お小遣いを節約したい人は、図書室でリクエストすれば、読むことができるかもしれない。

カードに必要な事項（書名、著者名、出版社名など）を記入してボックスに投函するとリクエストができる。購入してもよいという判断がされれば、約1ヶ月で新着図書の棚に置かれる。とは言え、判断はそれほど厳しくないそうだ。すでに図書室にあるもの、非常に高価なもの、青少年にふさわしくないものは認められないが、多くは購入してもらえる。ただし、ライトノベルは原則として認めてもらえない。



図書室にあるリクエストボックス

図書担当の保田先生は「どんな活用してほしいと思います。ただ、すでに図書室にあるかどうかは必ず確認してください」と利用を呼びかけた。

本棚の宝物

このコーナーでは、先生方にとって思い入れのある一冊を紹介していただきます。今回は国語科の宮崎先生にお話を伺いました。

先生の思い出の1冊はなんですか？

新田次郎の『孤高の人』という本です。長編の山岳小説です。

この本の魅力は？ 私はよく趣味で山登りをするので、雪山には危ないから行こうとは思いません。山をライフワークにします。なぜそこまでして登るのか。雪山の魅力はまだ知らない初心者ですが、底知れぬ魅力や魔力が山にはあるでしょう。読んだ後に、山に登りたくなるような作品です。

しかしこの本の主人公、加藤文太郎は一実在の人物でもあります。山頂、山の頂

新刊紹介

俳人の神野紗希（このうの・さき）さんの本『もう泣かない電気毛布は裏切らない』を紹介します。神野さんは高校時代に俳句甲子園で団体優勝し、その時の句は最優秀賞に選ばれました。

この本は、1話ごとに俳句が出てくるエッセイ本です。日常の会話や何気ない風景を取り上げ、人間の温かさ、優しさ、不思議さを感じさせる読みやすい本となっています。もう一冊、「エモい古語辞典」という新刊本を紹介します。「辞典」と聞くと読む気が

だから私はこの本が好き

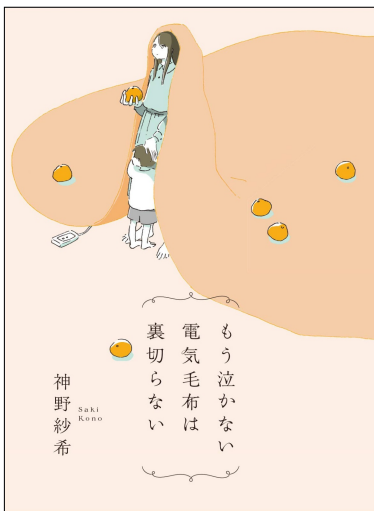
図書委員のブックレビュー

「愉快・痛快・爽快！」この『三匹のおっさん』は正にそんな本だ。かつて「三匹の悪ガキ」と呼ばれた幼馴染みのお三人組・キヨ、シゲ、ノリが、六十代の今「三匹のおっさん」として自警団を結成し、町内の様々な問題を解決していく話である。この話の魅力は、何といても主人公三人組が「おっさんのかっこよさ」にあるだろう。目立たず、詐欺や催眠術など身近な悪を成敗していく。彼らを取り巻く人たちの人間関係や心の動きも繊細に書かれているので、注目してほしい。登場人物達のやり取りに元気をもらえる暖かい一冊である。

（レビューア― 平野佑衣）



ならないかもしれませんが。しかし、この本は挿絵も多くあり、高校生が使うような言葉も多く集録されています。春夏秋冬や恋の言葉だけでなく、怖いもの、神話、伝説など色々なジャンルの言葉が1654語も集録されています。



『もう泣かない電気毛布は裏切らない』（上）・『エモい古語辞典』（下）



ほんのトリビア

今回紹介する本のトリビアは世界の最古の図書館です。世界最古と言われる図書館は紀元前3世紀に設置されたアレクサンドリア図書館です。アレクサンドリアはエジプトの都市で、今でも首都カイロに次ぐ大都市です。

アレクサンドリア図書館は世界中にある文献を集めることを目的としていました。当時は印刷技術はもろろん、現在のような形の綴じられた「本」も存在しなかったため、パピルス紙に書かれた「巻物」のような形で資料が収集されていた。その時代でも70万点が所蔵されていたとい

図書室の利用状況

夏季休業中だったこともあり、利用している人は少なかつたように思います。もうすぐ中間考査も始まるので、自習室としてもどんどん利用してみてください。



読書百遍

ある本を読んだ時、読む前の自分と読後の自分になにか変化があるはずだ。その変化を綴ったものが、夏の課題にもなっている読書体験記だ。この課題に、私は東野圭吾の「片想い」という小説を取り組んだ。片想いを綴った青春の1ページのような内容かと思いつきながら読み始めたが、そのような内容ではなく、東野圭吾らしい一級のミステリー小説だった。登場人物の中に体の性と心の性が違う、いわゆるトランスジェンダーが登場する。今でこそ広く認知されているLGBTQだが、この小説の初出が2004年であることを考えると、作者の問題意識の鋭さに驚かされる。▼この本を讀む中で、アスリートにおけるトランスジェンダーの問題を思い出した。男子と女子で別れている種目が一般的だが、女性のメソクリティを有した、生物学的には男性の選手が、女子種目に出場するという問題だ。多様性と調和が求められるスポーツの中で「男性の体を持つ女性選手が活躍することは本当に平等なのか」という声もある▼本を読む時で、世界の問題と繋げて考えてみると考えがもっと膨らむかと思えない。皆さんはどのように考えるだろうか。（大木こころ）

編集後記

図書のリクエスト、ぜひお待ちしております。